

持続不可能な状態をもたらす国内外の社会課題は様々です。2023年には世界の平均気温が軒並み史上最高を観測し、地球温暖化よりも深刻な地球沸騰の時代が到来したと話題になりました。2024年の世界の平均気温が産業革命前に比べ1.5度以上高くなるとの見通しもあります。我々を取り巻く外部環境も大きく流れが変わっています。

## エンビプログループを取り巻く社会の潮流

### 長期トレンド

**GX**  
GREEN TRANSFORMATION  
グリーン  
トランスフォーメーション

**DX**  
DIGITAL TRANSFORMATION  
デジタル  
トランスフォーメーション

### 中期・短期トレンド

- ◆ グリーンバリューチェーン構築の要請
- ◆ 国際資源獲得競争の高まり
- ◆ 廃プラスチックに関連した社会課題の表面化
- ◆ 非ITビジネスにおけるデータ活用
- ◆ IoT, AI, Robotics活用事例の増加
- ◆ 人材獲得競争の高まり

## 気候変動への 対応が差し迫る

# ミッション実現のための マテリアリティ（重要課題）

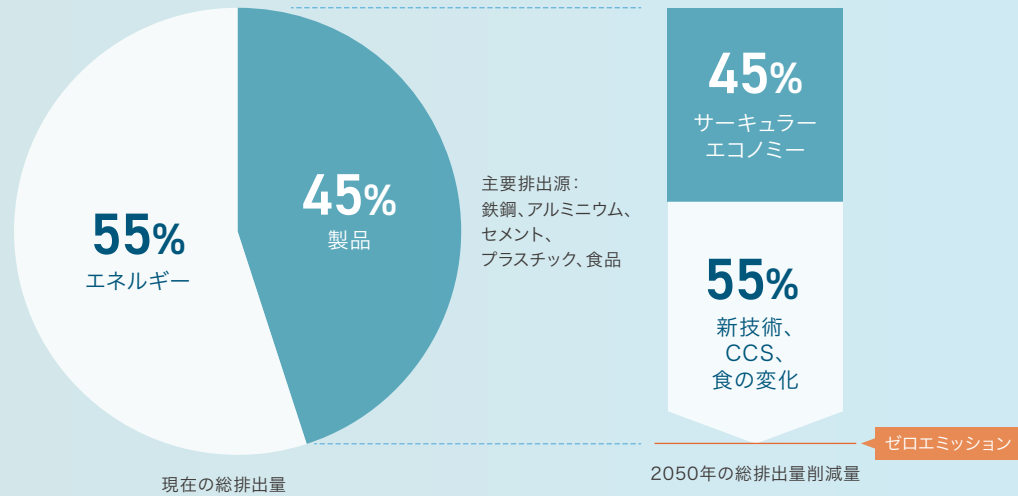
# 02

## カーボンニュートラル 2050達成に向けて

気候変動への対応として、社会からカーボンニュートラルへの要請にますます拍車がかかることが予想されます。カーボンニュートラルを実現するためには、経済活動の電化と使用電力の再エネ化に加え、サーキュラーエコノミーによって製品の製造・使用・廃棄といったライフサイクルを見直し、意図的に再設計することが求められています。

01 成長戦略

温室効果ガス排出の全体像：  
見過ごされている排出に取り組む※1



エレン・マッカーサー財団※2によると、温室効果ガス全排出量のうち、再エネ化によって削減できる排出量は55%であり、残りの45%は製品の製造と使用に関連するものとされています。この45%の排出量削減は、サーキュラーエコノミーによって取り組むことができると言われています。日本では、温室効果ガス全排出量のうち、資源循環の取り組みにより、温室効果ガス削減に貢献できる余地がある部門の割合は約36%という試算もされています※3。

※1 出典：エレンマッカーサー財団「Completing the picture: How the circular economy tackles climate change」  
 ※2 エレン・マッカーサー財団：サーキュラーエコノミーへの移行加速をビジョンとして2010年にイギリスで発足した組織。設立以来、情報発信による啓発活動や、国を超えたグローバルネットワークの構築など、多岐にわたる活動を行う。  
 ※3 出典：環境省『第四次循環型社会形成推進基本計画の進捗状況の第2回点検および循環経済工程表に関する参考資料集』

エンビプログループが目指すのは「あらゆるもののいのちを活かして使い回す」サステナブルな社会です。当社グループではRE100を推進し、鉄スクラップをはじめ、経済活動の電化を支えるために必要な非鉄金属・レアメタルなどのグリーンマテリアル<sup>\*4</sup>を生産しています。生産したグリーンマテリアルを動脈の調達・製造プロセスにつないでいくことでサーキュラーエコノミーを実現し、製品や素材の価値を高い状態のまま流通・循環し続けるためのサプライチェーン構築を目指しています。サーキュラーエコノミー関連市場は、国内外で今後大幅に拡大が見込まれ、日本国内では2030年に80兆円、2050年には120兆円を目指すとされています。

サーキュラーエコノミーをリードする企業としてマテリアリティ（重要課題）を特定

テーマ	マテリアリティ(重要課題)	対応するSDGsの目標
グリーンマテリアルの生産	<p>サプライチェーンにおけるグリーンマテリアルの需要増加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 電炉増設による鉄スクラップの需要増加</li> <li>② 電化による非鉄金属・レアメタルの需要増加</li> <li>③ 廃プラスチックの高度な資源循環促進</li> </ul>	
生産性・DX	<p>生産プロセスにおける省人化 事業活動におけるデータ活用の促進</p>	
人材育成	<p>事業活動を推進する人材への投資</p>	

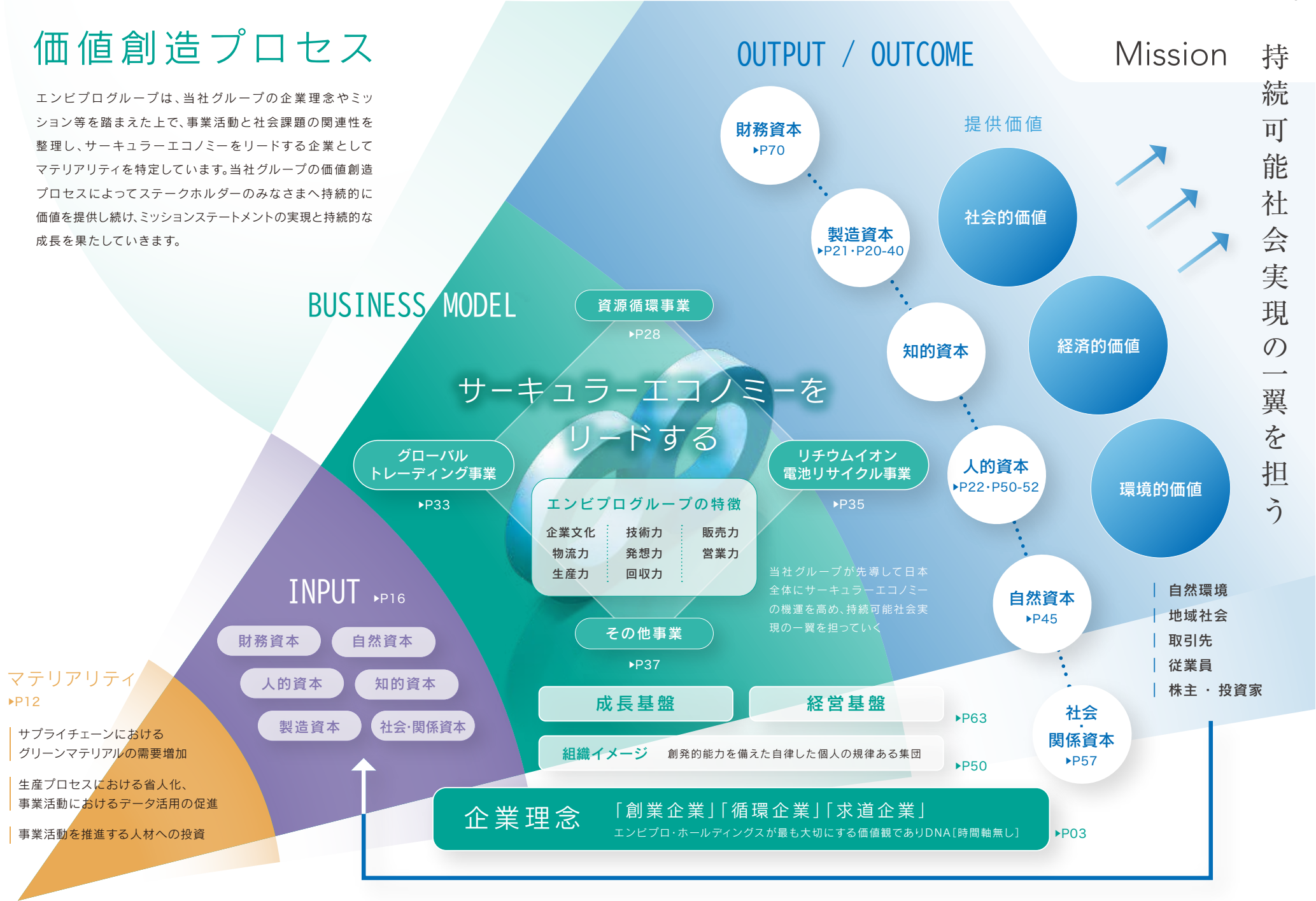
<sup>\*4</sup> グリーンマテリアル：温室効果ガスの発生がない、もしくは、発生量が極めて少ない方法で地上資源（廃棄物）から作られる素材（再生原料・再生材料）

03  
 サークュラーエコノミーを  
 広げていくために

# 価値創造プロセス

エンビプログループは、当社グループの企業理念やミッション等を踏まえた上で、事業活動と社会課題の関連性を整理し、サーキュラーエコノミーをリードする企業としてマテリアリティを特定しています。当社グループの価値創造プロセスによってステークホルダーのみならず持続的に価値を提供し続け、ミッションステートメントの実現と持続的な成長を果たしていきます。

持続可能社会実現の一翼を担う



# サステナビリティ経営と6つの経営資本の関係

社会の持続可能性と自社の持続可能性を同時に達成するためには、6つの経営資本を偏りなく向上させる必要があります。  
 エンビプログループは、持続可能社会の実現に一翼を担うため、サステナビリティ経営の実践を通じて企業価値向上と社会課題解決の両立にグループを挙げて取り組んでいます。

01 成長戦略

